

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	*	*	*
	○	一般小売店 [酒] (店長)	販売量の動き	・新型コロナウイルスのワクチン接種も進み、重症者も減りつつ観光客も増えてきている。冬場に向かい新型コロナウイルス新規感染者数も増えてきているが、感染対策も認知されているため、観光関連は潤うとみている。
	○	スーパー (企画 担当)	来客数の動き	・国内旅行者が増えてきたことに加えて、新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着き、消費者の生活環境が大分平常時に近い状態に戻りつつある。そのようななか、前月まで前年割れが続いていた来客数が前年を上回るようになっている。
	○	スーパー (販売 企画)	単価の動き	・コロナ禍での行動制限の解除があり、前年よりははまだ少ないが来客数は増え、値上げの影響で客単価が大きく上がっている。買上点数は前年より少ないが、単価高の恩恵で売上は前年を上回っている。観光客増加の影響を受ける店舗は来客数も前年を上回っている。
	○	コンビニ (経営 者)	来客数の動き	・来客数が安定しており、客単価や買上点数が増加している。
	○	コンビニ (代表 者)	単価の動き	・プライベートブランド商品を中心に値上げを価格にうまく転嫁することができている。元々定価販売を行っていたため、他業種に比べ抵抗が少ないと推測している。
	○	コンビニ (副店 長)	来客数の動き	・以前と比べれば来客数、売上も回復傾向ではあるが、直近では物価の上昇の影響か、買い控え傾向が見受けられる。自身も含め生活防衛と見受けられる。
	○	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・12月も全国旅行支援の効果で来客数が増え、売上アップにつながっている。
	○	家電量販店 (営 業担当)	来客数の動き	・9月から11月にかけての来客数の前年比は95%で、12月では97%となっている。気温が実績に影響する暖房関連商品などが好調である。
	○	乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・今年の12月は前々年ほどではないが、前年を上回っており11月同様に景気は良くなっていそうである。
	○	その他専門店 [陶器] (製 造)	販売量の動き	・前年末よりも注文数は多い。この時期は元より沖縄は観光客が増えるので、客先はその準備をするため注文数が増える。
	○	その他飲食 [居 酒屋] (経営 者)	お客様の様子	・県外観光客や、インバウンド客が増えてきており、新型コロナウイルス感染症発生前の8割程度まで宴会予約も徐々に入り始めている。若い客層は新型コロナウイルスに関して余りに気にしなくなっている。夜9時後の遅い時間の入客はまだまだ厳しい。
	○	観光型ホテル (代表取締役)	来客数の動き	・宿泊部門に関して年末の動きは良くないが、全国旅行支援再スタート後の予約の動きは良くなっている。飲食宴会に関しては年末忘年会と比べて、新年会の予約が増えてきている。ただ今後新型コロナウイルスの新規感染者数が増えることで人流を抑制する動きが出ると再度厳しい状況になると予想している。
	○	旅行代理店 (マ ネージャー)	単価の動き	・全国旅行支援の影響もあり、単価や販売量は増えている。会社の実利としては支援金の立替や作業量などを差し引くとマイナスである。
	○	住宅販売会社 (役員)	来客数の動き	・コロナ禍の影響も限定的となっており、法人個人含め住宅購入の意欲、事業用物件の投資意欲が活発になっている。
	□	住宅販売会社 (代表取締役)	お客様の様子	・建売住宅や分譲マンションの販売状況が予想以上に苦戦している。
	▲	百貨店 (店舗企 画)	来客数の動き	・商品の値上げや電気料金の価格高騰の影響で、来客数が減り、買上点数も減少傾向となっている。更に客単価は上昇傾向にあり、客の財布のひもが固くなっている。
▲	乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・販売受注量がこれまでより若干落ちてきている。	
▲	一般レストラン (代表者)	来客数の動き	・集客が全体的に弱い。	

	▲	観光型ホテル (企画担当)	販売量の動き	・ホテルの9月の販売室数が前年比289%増加なのに対し、12月の販売室数は前年比47%増加と、プラス幅が小さくなっている。
	▲	通信会社(営業担当)	販売量の動き	・来客数や販売数の落ち込みがみられるため商業施設など店外での営業を強化する対策を行っているが、12月では販売数が前年を下回る結果となっている。新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなっているため物価高や手続のオンライン化による来客数の減少などが影響しているとみられる。
	×	商店街(代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症がまだ収束しておらず、その影響で皆大変四苦八苦している。ほんの僅かの店舗では良いと言うが、全体をみると完全に新型コロナウイルス感染症が収束しない限りは大変厳しい状態が続くとみている。
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・国内からの観光客はここ数か月新型コロナウイルス感染症発生前の水準にまで回復しており、観光関連を中心に売上が戻ってきている。
	○	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・契約の客の動きが確実になってきている。若干契約量が増えている。
	□	窯業土石業(取締役)	受注量や販売量の動き	・見積り、受注、生産とも3か月前と比較し、同様に推移している。
	□	輸送業(経営企画室)	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の第8波の兆しがみえているものの、特に取引先の発注量等に影響はなく、ウィズコロナ政策が成功しているように見受けられる。物価の上昇、増税等の景気が悪くなる要因はあるが特に変わらないとみられる。
	□	会計事務所(所長)	それ以外	・コロナ禍が落ち着き、旅行制限も緩和され、土産品店では復調傾向であるが、まだ本格的な回復とは考えられない。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—
雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・新規含め派遣依頼は幅広い業種からきている。ようやく社会が動き出している雰囲気がある。
	○	職業安定所(職員)	求人数の動き	・年末に向けての求人数の増加などで、求人数等はほぼ新型コロナウイルス感染症発生前に戻ってきている。
	□	人材派遣会社 (総務担当)	求職者数の動き	・求人案件は増えているが、求職者の動きが鈍い。
	□	求人情報誌製作会社(営業)	求人数の動き	・少し前の秋頃に求人数は増加したが12月はやや微減しており、3か月前とほぼ同件数である。例年12月は企業の求人活動が落ち着く時期としてみており、前年同月とほぼ同件数である。
	□	学校[専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・どの業界でも人手不足ということもあり、前月同様、例年以上の求人がある。
	□	学校[大学] (就職支援担当)	それ以外	・年末の一時的な景気は期待できるが、依然として新型コロナウイルス感染症、物価高が重なり阻害要因が大きい。
	▲	—	—	—
×	—	—	—	